



生命誌の広場

テーマ別に投稿を読む

- 中村桂子の「ちょっと一言」▶
- 研究について▶
- 季刊「生命誌」▶
- 展示・映像▶
- その他▶

あなたの考えをお聞かせください

ご意見はこちらから

最新のお返事

- 2019年10月02日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月26日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月13日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月28日 [この夏一番元気だったものは？](#)

最新のご意見

- 2019年09月27日 [RE:アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月25日 [アゲハの気持ち](#)
- 2019年09月09日 [原爆について](#)
- 2019年09月05日 [BRHメールマガジン vol.363 新着情報](#)
- 2019年08月23日 [この夏一番元気だったものは？](#)

過去の書き込み

2019年 10月
GO

みなさんからのご意見

その他

親和力と神話力

投稿日：2014.11.16 ニックネーム：hon no mushi

…立冬を過ぎ、ムシの気配もなくなるかと思ったら、ツツジの葉が丸々喰われていって、先日その犯人を見つけました…ルリチュウレンジ蜂の幼虫です…そこで我が家の警部は推理をしました—この幼虫は毎年よくモッコウバラの木で見かける…その木が剪定しきれず大きくなる→大量に増え、そこからツツジに移った—のではないかと…。また、芝生の上に、毛がまばらに生えた黒い幼虫が軍団になって固まっているのを見つけ、気持ち悪いと思いましたが、ほっといて次の朝も見てみたら、ほぼ同じ場所に静々とうごめいていました…ただ、直径1mぐらいの半円を描いて移動しており、その跡が露のなかに残っていて…これも警部が推理したところでは—アブが季節はずれに場違いなところに卵を産んだのではないかと…夏にカブトムシに与えたスイカが古くなったので捨てようとしたところ、その下に隠れていてすぐに地中に潜っていた塊りと似ていたから—

それはそれとしてゲーテの親和力からふと想い至ったのですが、石鱈のけん化でもタンパク質でも、疎水部とKイオンとくっつくような親水部があり、コロイドを形成しますよね…それが形作られていく様が、頭の中でまるでダンスを踊っているように廻っているのです…疎水部と親水部がペアになって、他の組と合流したり離れたりしながらくると…（現在読んでいる忍者の本の言葉を借りると）ソーマト・リコール（走馬灯？）のように…そして自分はそれを観るだけで加わることはないのです…まるで死にゆく者の目線…虚空からの…また、西川先生が邪馬台国の話をされていましたが、先の『…少数民族文化論』では、台の字が旧字体の臺でこれはヤマト言葉のトの音に当てたもの、本当はヤマト国のことを言っているのではとったりしました…（前者本では倒した相手に敬意を表して「コトダマに包まれてあれ」という言葉が出始めました）

中村桂子の「ちょっと一言」

小学校入門期の国語

投稿日：2014.11.06 ニックネーム：竹ちゃん

いつも楽しみに読ませていただいております。
私は、元小学校の教員でした。
今回の「生物多様性」って知っていますかを読んで、
青年教師の頃、指導されたことを思い出しました。
「言葉の学習で大事なことは、言葉と事実とを結びつけることです。」
と、教えられました。
言葉には厚みがあるということです。
それは事実には厚みがあるからです。
「うさぎ」という言葉を学習する場合に、どんな状況のうさぎかということとその扱いも変わらなくてはならないのです。
「話し言葉」では、どう口を動かすか、「書き言葉」では、どう書き表すか、う・さ・ぎをバラバラに教えないで、一つのまとまりとして教えた方が、事実と結びつくという教えでした。

別な話になりますが、投稿者杉山昭夫先生に今夏、宮城県の研修会でお会いすることができました。これも、生命誌館とのつながりから生まれました。これからも、輪が広がることを願っています。それも、中村館長さんの人柄に惹かれ

新着情報



10月19日生命誌オープンラボ (19.10.01)

10月4、5日 生命誌を考える映画鑑賞会(19.10.01)

昆虫脳の標本展示が登場！(19.10.01)

パラパラめくる生命誌3ダウンロード開始(19.10.01)

あくあびあ芥川とスタンプラリー開催(19.10.01)

お返事

投稿日：2014.12.18 名前：中村桂子館長

小学校の国語で大事なことは言葉と事実の結びつきということよくわかります。すべてでそうでなければいけませんね。でもこの頃の都会では日常の自然とのつき合いが少なくなっていますので、頭だけで「生物多様性」を理解することになり、とても難しいことのように思ってしまうのでしょうか。何を考えても自然との関わり大切さにつながります。



中村桂子の「ちょっと一言」

『生物学個人授業』との出会い

投稿日：2014.11.04 名前：杉山昭夫

最近、「生物多様性」ということばをマスコミで見たり聞いたりすることがほとんどありません。たぶん、2012年に名古屋で行われた生物多様性の国際会議の前後にマスコミ等で多く取り上げられそれが記憶に残っているのかもしれない。そういう私ですが、この秋「生物多様性」ということばに出会いました。それは、『生物学個人授業』という岡田節人先生と南伸坊さんの書かれた本の中です。この本を手にとったのは、昨秋中村先生にお会いした際、岡田先生に館長をお願いした経緯を伺っていたこともあり岡田先生に関心を持っていたからでした。『生き物が見る私たち』同様に難しい問題を扱っているにもかかわらず、最後までおもしろく読むことができました。それと、この本の中で岡田先生が中村先生を「盟友」と呼ばれていて、その信頼の深さに心打たれました。中村先生が書かれているように、「ことばの意味を知識として持つ」ことよりも、いろいろいる生きものを身近に感じられるようにすること」は岡田先生のお考えと同じであり、私も同感です。教員経験者として、自然が多くある地域に住んでいても、生きものを身近に感じられない子供たちが増えてきました。だからこそ教員は生きものを身近に感じる感性を大事にしてほしいと思います。「学力テスト」の点数公表が続く限り、平均点より高い低いを比較し、点数を追い求め続けているのが現実ですが、長くなり申し訳ありません。生命誌版人形劇「セロ弾きのゴーシュ」が12月に札幌で公演されるとのこと。ぜひ東北でも公演を願っています。様々な経験をした東北の人々は、きっと深いところでこの人形劇を理解してくれるのではないのでしょうか。

お返事

投稿日：2014.11.06 名前：中村桂子館長

確かに名古屋での会議の時だけだったのかもしれない。マスコミは「事件」を追うものであって「事柄」を語るものではありませんから、多様性が事件である時しか取りあげないのですね。今の社会は、マスコミで取りあげられないものは重要でないもののように思われてしまっているの・・・。
岡田先生の御本はどれも面白いので、是非お読み下さい。人柄と学問が一体化した学者らしい学者が少なくなっている今貴重な方です。